

国際化への道

世界に向かって発信

基礎科学の研究拠点

特殊法人

理化学研究所

この研究所では一体どんなことをされているのです

●研究所全景



RIKEN 理化学研究所

西門まで110m →

現在在籍する研究者数はほぼ千人、国内外を含めて研究者数は数千人の規模に達します。平成13年度の全予算は87億8千万円、予算も大きいのですが、その成果も盛大で、いまやわが国の科学技術のパワーポーントを支えるようになつています。

●原子力 高エネルギー、宇宙の放射線:

●微細なナノテクノロジー、細胞生物学、生体の再生、細胞的情報伝達、免疫アレルギーの総合的な研究:

広大な敷地を占め、大規模な研究施設が連なる総合的な自然科学の研究所が和光市の一角に所在します。

この研究所は1917年に創立され、80年以上の歴史を持つわが国で唯一、しかも最大の規模をもつサイエンスの研究機関です。創立以来自然科学の研究で輝かしい業績を挙げ、日本の研究レベルを世界的なもとに押し上げてきたのです。が、それらの特色は設立の理念に見られます。まことにこの研究所の沿革を辿つてみましょう。

大正6年に民間の研究機関としてスタートしたのですが、設立のねらいは科学技術の進歩、向上にあります。その後昭和33年(1958)国によって科学技术に関する総合研究を実施した。欧米の高度な研究水準に追い付き、追い越すことを目標としたのです。物理、化学の基礎研究を重視し、これを応用して実用

は、緑に囲まれた建物群を外から垣間見るだけ、この中で一体どんな研究がなされているのか、またそれは私たちの生活とどんな関わりがあるのか、全く不明なのです。

しかし私たち地域の住民は、この研究所では物理、化学、工学、生物学、生物医学、医科学の広い分野の高度な研究が行われています。

そこでこのたび広報室長の矢野倉実博士をお訪ねして、質問に答えて頂きました。話題は過疎な「難しい内容のものを含んでいるので、何回も足を運んで連載する予定です。

府および産業界から多くの基金が集まり、東京都文京区に駒込に産声を挙げたのです。創設後、ここでは次々と世界中が注目する優れた業績が打ち立てられ、長岡半太郎、仁科芳雄博士などの物理学者が輩出し、湯川秀樹、朝永振一郎博士はノーベル物理学賞に輝きました。戦前にサイクロotron(加速器)が稼働していたという)とはこの研究所の驚べき先見性と言うべきでしょう。

この研究所のいまを語つて下さい。

キーワード

「生分解性プラスチック」
その2

前回に引き続き

「生分解性プラスチック」

方法の代わりに
1、植物によって糖 植物油
から光合成
エステルを生産する方式を開発し、このポリヒドロキシアルカン酸(PHA)は優れた生分解性プラスチックの素材となることを発見しました。

PHAは熱で加工しやすく(熱可塑性)、生体適合性を合わせもつ材料で、しかも自然環境で速やかに分解されるので、医用材料としても有望である。

土肥博士の研究はさらに子組み替えを行なってローラーを合成する微生物を単離(單独に分離)、さらに遺伝

前進して、このポリエステルを合成する微生物を単離するまでの過程で、このポリエステルを合成する微生物を単離(單独に分離)、さらに遺伝

的に注目されている。



← 水をやると
土の中でシートが
分解する →

流れる雲の音楽
ぼくの行く先に雲があるのなら
ぼくは 云に乗ってゆこう
昔見ていた 小さな驥馬や
白兔や子鹿たちにまた
青空を走っていると

ぼくは ひよつとすると

ぼくは 云に乗ってゆこう

明るい雲の電車にゆれて

土の中にすきで押し込めば

良い。写真(示すも)に、10cmくらいの地中に埋め、植

木や野菜のように水をやる。

1月も経つこのフィルム

は土に還されて、もとの水

と炭酸ガスになる。

農業、土木の資材に利用され、これらは

土の中にすきで押し込めば

エスプレッソコーヒー
コーラ・サンドイッチ
インターネット常時接続

志木駅東口から
直進2分
tel. 048-487-0767



志木駅東口から
直進2分
tel. 048-487-0767

藤間千景舞踊教室

藤間流日本舞踊入門随時受付

「浦和教室」「志木教室」「北海道帯広教室」

Tel. 336-0911
さいたま市三室413-10
TEL・FAX 048 (875) 5574

COSMETICS ADDIA

マックスファクター・レブロン・イグニス
アルビオン・ブルガリ・ミスエレ・MD
志木ダイエー専門店街(1F)
Tel. 048-472-0154

理化学研究所高分子研究
室の土肥義治博士は、カーリル・ダウの3段階の生産

「生分解性プラスチック」
その3



かいじろうの詩・絵

そうしたら ぼくは昔聞いた音楽を
歌つてもらう人だ。だから西風よ
そして ぼくはそんな高い青空で聞いた
雲の音楽を 何時か春になつたら
小鳥たちに 教えてあげようね

ほぼ千人、国内外を含めて研究者数は数千人の規模に達します。平成13年度の全予算は87億8千万円、予算も大きいのですが、その成果も盛大で、いまやわが国の科学技術のパワーポーントを支えるようになつています。

●原子力 高エネルギー、宇宙の放射線:

●微細なナノテクノロジー、細胞生物学、生体の再生、細胞的情報伝達、免疫アレルギーの総合的な研究:

